

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1	<p>ICTの効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>87.7% B(a37.7%+b50.0%)<86.4%>【84.6%】</p> <p>1年 86.8% B (a39.9%+b46.9%)<87.0%>【79.8%】 2年 85.0% B (a28.2%+b56.8%)<80.6%>【89.9%】 3年 91.4% A (a45.7%+b45.7%)<92.3%>【84.6%】</p>	<p>a評価+b評価が87.7%となり、中間評価とほぼ同じ、B評価であった。昨年度最終評価は84.6%で昨年度より若干、上昇している。「aよく当てはまる」も33.8%から37.7%となり、上昇している。よって、年間を通して、授業やその他の様々な場面において、生徒側も教員側も、ICT機器によるGoogleClassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用が増え、学習効果が高まっていると判断できる。今後は、「aよく当てはまる」の割合をさらに増やし、かつ、A評価を達成できるように、有効なICT機器活用を模索し、活用の幅を広げ、生徒の学力向上につなげたい。</p>
	<p>② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を作り、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>79.6% B (a30.6%+b49.0%)<69.2%>【66.7%】</p>	<p>a評価+b評価が79.6%で、中間評価のC評価からB評価となり、A評価にはあと少し及ばなかった。よって、中間評価の69.2%や昨年度最終評価の66.7%より大幅増となった。また、「cあまり当てはまらない」が中間評価の30.8%より、大幅に減少し、20.4%となった。今後は、この結果に満足することなく、教師同士の情報交換の場を増やし、グループワークやペアワークの有効な実施方法を検討するなどして、A評価を達成したい。</p>
	<p>③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場を積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>76.4% B (a17.6%+b58.8%)<78.8%>【70.6%】</p>	<p>a評価+b評価が76.4%で中間評価の78.8%とほぼ同じ結果となった。昨年度最終評価の70.6%より上昇している。A評価に大分近づいてきた。ただし、中間評価と比べると、「aよく当てはまる」が25.0%から17.6%に減っている。生徒同士が意見交換するためには、教師側の生徒への問いかけの工夫と生徒自身の基本的な知識の獲得が必要である。その点を含め、今後はA評価を達成するための方策を検討し、実施に移して、来年度こそはA評価を達成したい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>ICTを活用した授業では、書く時間が短縮され、下を向いている生徒が少ないのが良い。グループワーク・ペアワークも慣れた様子であった。ICT活用は1つの方法でしかなく、色々な授業方法がある。アナログも鉛筆も大事である。最終的には、生徒自身が自分の力で学び取ってほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>		<p>ICT活用において、個々の教員の得手・不得手が完全に払拭できない面があるものの、評価は高く推移している。今後も、現状に満足せず、積極的に研修等を行い、より効果的な使用方法へとブラッシュアップしていきたい。 また、ICTは目的でなく手段であることを常に念頭に置き、生徒の思考力アップのために何が有効かを考えていきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2	個別面談の充実、探究活動を主とする学習活動、さらにはデジタル・理数分野への理解を深める教育活動を積極的にいき、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に進めること、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	<p>①</p> <p>きめ細かい個人面談、進路調べ、キャリア教育などを通じ、生徒の進路意識を高め、自ら能動的に進路目標を設定し、進路実現を図ろうとする姿勢を育てる。</p> <p>②</p> <p>探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来社会に貢献できる人材となるよう、取組を工夫する。</p> <p>③</p> <p>探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIに関心をもち、適切に活用できることを目指し、基礎的な知識やスキルの習得に取り組む。</p> <p>④</p> <p>進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。</p>	<p>進路指導課 学年教科</p> <p>面談や進路学習、進路の行事を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた(aよく+bやや)とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上</p> <p>探究・DX推進室</p> <p>(1・2年生)総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、社会問題により関心が高まり、卒業後の学びたい学問分野・領域等(将来やりたい仕事等)が年度当初に比べ、より明確になった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>探究・DX推進室</p> <p>探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> <p>進路指導課 学年教科</p> <p>学問分野・領域等が進学先と一致している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>進路を実現するため、学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満</p>	<p>88.8% B (a 37.5%+b 51.3%) <85.4% >【82.8%】</p> <p>1年 83.8% D (a 28.9%+b 54.9%) <79.0% >【78.5%】 2年 89.5% C (a 32.4%+b 57.1%) <84.7% >【82.2%】 3年 93.4% A (a 52.3%+b 41.1%) <93.1% >【89.3%】</p> <p>76.3% B (a27.5%+b48.8%) <73.9% >【76.3%】</p> <p>1年 68.5% C (a19.4%+b49.1%) <63.4% >【76.1%】 2年 74.6% B (a25.8%+b48.8%) <77.6% >【78.6%】 3年 86.4% A (a38.0%+b48.4%) <80.9% >【73.5%】</p> <p>69.6% B (a 13.5%+b 56.1%)</p> <p>1年 73.4% B (a 11.9%+b 61.5%) 2年 60.7% B (a 7.9%+b 52.8%) 3年 76.3% A (a 22.3%+b 54.0%)</p> <p>学部等での一致率 61.0% C 【67.4%】</p> <p>※「進路志望調査」(4月実施)に回答された第1・2志望と進学先の一致率</p> <p>1年 58.3% B 【58.2%】 2年 42.3% D 【53.8%】</p> <p>※総合学力テストの国数英3教科総合の全国偏差値で比較(1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月)</p>	<p>前半期に実施した大学見学ツアーや大学出張講義、文理選択など大きな進路行事を経て、意識の高まりが感じられたが、後半期には更にポイントが上昇した。A評価では10%を超える上昇が見られ、一方でC評価が大きく減少していることから、進路に対し関心の薄かった生徒が体験を経て、自分事として考えるようになってきたことがうかがえる。また、担任によるきめ細やかな面談や探究活動、DXに関する体験等をきっかけに大学や学問に興味を持ち、進路意識を高めたと考えられる。学校内で取り組まれる様々な活動においても、進路学習と関連性を持たせ、活用していくことで更に生徒の意識を高めていきたい。</p> <p>1年生、2年生ともに昨年度の取り組みよりも自由度の高いテーマ設定、班編成を行ったが、あまり大きく数値は上昇しなかった。探究に向かう意識の醸成や課題の設定に時間をかけられなかったことが原因だと考えられる。来年度は1年生には4月からファンリテーション研修を行い、グループでの活動を円滑にするとともに「問い」を発生しやすいようなスキルを身につけさせ、「探究」とは何かを教員・生徒共通認識を持って指導していきたい。来年度の2年生は今年度の2年生が7月から行っていた活動を1年生の2月から行うため、余裕を持って課題の設定に時間をかけられると予想できる。3年生は今年度行っていた「高校での学び」をさらに発展させ、個別探究を行ってきたい。</p> <p>1年生は野々市・石川ワンランクアップ計画、2年生はMGP(明倫グローバルプロジェクト)を通して、データサイエンスを活用する場面があったが、正しい方法でデータの分析ができていない生徒が少なく感じた。3年生はDX出前授業を文理別日程で行い、データサイエンスの有用性を感じることができていた。来年度はデータサイエンス・AIの活用が有用なものになるよう、生徒の研修だけでなく、教員の研修も充実させ、生徒の指導に活かしていきたい。</p> <p>担任の面談や進路講演会などでは繰り返し興味や関心、社会への課題意識を持って進路選択することを伝えた。その結果、なんとなく学力でいけるところでよい、といった選択は減った。一方で、KUGS特別入試や総合型選抜・学校推薦型選抜へのチャレンジによって、大学での学びについて改めて考える機会が増え、学部の志望変更が起こっていると考えられる。次年度は、3年次に強い志望を持って進路実現に向き合えるよう、1・2年次からの進路探究をさらに進めたい。</p> <p>模試の前後には担任による模試データを用いた面談が行われている。今後も模試を活用し、目標に向け具体的な行動を考えて行くことで自己調整力を高めていきたい。また来年度は、模試のWEB利用が進む予定である。模試を受け取り取り組むべき問題など、個別最適化の仕組みの利用を進めていきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力差が広がり、学習意欲に差が見られるのではないかと。入学後、早めに対策してほしい。生徒がおとなしいのは、偏差値や成績で自信が持てないことが原因の一つではないのか。目標を定めさせて、頑張らせてほしい。 探究活動が盛んになっているのは喜ばしいことだが、教師の負担が過多にならないよう気をつけてほしい。 就職志望者に対する対応はしっかりできているのか。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の6月の大学見学は好評であった。このような将来を考えさせる企画を更に充実させていくことで、生徒の学習へのやる気を喚起したい。 探究活動について、積極的な教員の存在がきっかけとなり、生徒の変容も見られ、その学習効果が実感されつつある。学校全体が同じ気持ちで取り組めるよう推進していきたい。 就職希望者は多くないが、就職ガイダンスなどは実施している。 				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3	<p>① 教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。</p> <p>② 採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する。</p> <p>③ 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。</p>	<p>各学年</p> <p>教務課</p> <p>副校長 教頭</p>	<p>ICT教育支援サービスを活用することや、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく+bやや)と考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>採点省力化ソフトを活用し業務の効率化を図ることができた(aよく+bやや)と考える教員の割合が</p> <p>A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満</p> <p>時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が</p> <p>A 0人 B 2人未満 C 3人未満 D 3人以上</p>	<p>77.8% B (a24.0%+b53.8%) < 75.2% > 【76.1%】</p> <p>1年 75.1% B (a24.2%+b50.9%) < 74.3% > 【71.8%】 2年 73.6% B (a19.2%+b54.4%) < 70.1% > 【81.0%】 3年 85.3% A (a29.1%+b56.2%) < 82.0% > 【76.3%】</p> <p>100% A (a 77.6%+b22.4%) < 100% > 【98.0%】</p> <p>月平均2.6人 C < 4.0人 D > 【3.7人】</p> <p>(単位：人) 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平均 80時間以上 5 7 3 1 1 4 1 1 0 2.6 うち100時間以上 1 3 1 0 0 0 0 0 0 0.6 【昨年80時間以上 8 5 1 4 2 6 6 0 1 3.7】</p>	<p>【1年】各教科では、生徒の現状に合った教材を課題として提供し、学年では「到達度テスト」の結果をもとに各生徒の学力に応じて配信される課題に取り組みました。また、スタディサプリEnglishについても朝学習や週末課題で活用した。引き続き取り組むことの意義をしっかりと伝えていきたい。</p> <p>【2年】スタディサプリEnglishを活用している。学年では7月実施の到達度テストで生徒の学力に応じた動画付き課題を配信し、それらを夏季休業課題として取り組みました。年度末の課題も同様に活用する。また、理系教科で冬季休業課題にも活用した。</p> <p>【3年】朝学習や課題においてICT教育支援サービスを活用することができた。入試に向けて個々が必要な科目・分野を判断し、自主的に取り組む生徒も増えてきている。</p> <p>中間評価に続き、a評価+b評価が100%となり、A評価を達成した。採点省力化ソフトを使用しての採点は、全職員に浸透し、業務の効率化に大きく貢献し続けている。よって、「採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する」という目標は達成された。</p> <p>12月までの長時間勤務者数の月平均は2.6人で、中間評価(7月まで)の4.0人や昨年度の3.7人と比べ減少し、C評価となった。定時退校日の毎月2回の設定・実行、採点省力化ソフトの利用やGoogleフォームを利用したアンケート集計等業務負担軽減に向けたICT活用、県教委産業医による長時間勤務者に対する面接指導の実施等による教員の意識改革等の取組の効果が少しずつ現れてきている。ただ、学期はじめや部活動の繁忙期(4, 5, 9月)の時間外勤務の増加はある程度やむを得ないところはあるものの、引き続き、授業や校務、部活動指導に見通しを持ちながら、ICTのさらなる活用をはじめとした業務改善や業務の偏りの是正等に取り組み、多忙化改善につなげていきたい。</p>
	学校関係者評価委員会の評価	採点省力化ソフトは効果を上げているようだが、教員の働き方改革と教育はしっかり分けて考えてほしい。			
	学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	試験の作問について、記号問題にすれば採点は非常に容易であるが、択一問題であっても思考力・判断力が問えるような問題、書く力を測ることができる問題になるよう、作問力を高めていきたい。			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4	部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課 学校行事やPTA活動で保護者が来校した、または職員とのやりとりを電話などでした回数の平均が2回以上の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	来校または職員とのやりとりした回数が 5回以上 18.9% < 4.8% >【14.8%】 4回 12.6% < 2.7% >【11.7%】 3回 24.0% < 14.6% >【23.1%】 2回以下 44.6% < 77.8% >【50.4%】 B	3回以上来校または職員とのやりとりをされている保護者が55.4%である。昨年度は、5月に感染防止対策が緩和されたとはいえまだ影響が残った雰囲気であったが、今年度はほぼコロナ前に戻り、さらに明倫祭や教育ウィークの授業参観、発表会などに来校される方が増えたと思われる。学校の活動を見たり、教職員と情報共有をしたりする機会を積み重ね、本校の教育活動を理解、協力していただいたり、生徒支援を充実させたりする一助としたい。引き続き各種連絡に努めていきたい。
		② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課 ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 40,000以上 B 35,000以上 C 30,000以上 D 30,000未満	ホームページのアクセス数は (単位:件数) 4月 73,115【36,343】 9月 92,406【35,007】 5月 79,052【38,456】 10月 58,323【61,712】 6月 124,258【46,122】 11月 134,276【53,007】 7月 161,570【43,974】 12月 103,483【43,484】 8月 103,483【20,401】 月間平均 102,862【42,056】 A	各課・学年行事や部活動について毎日の更新ができるよう呼び掛けている。今年度は学年だよりを紙の配付ではなくホームページ掲載とした。前年度から継続して教職員リレーブログを掲載し、先生方は、興味深い情報を投稿している。これらの取組のためか、アクセス数は前年度の同月と比べて数倍となっている。今後も掲載内容についてPTAの意見等を伺い工夫を続けていく。
		③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課 1,2年生の部活動の加入率が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	85.1% A < 87.5% >【93.3%】 1年 90.7% A < 92.5% >【99.4%】 2年 80.0% A < 82.9% >【86.0%】	今年度より1年生の部活動入部を自由にしたが、部活動加入の良さ等を強調した結果、加入率は比較的高い数字になったのではないかとと思われる。ただ、途中退部する生徒も増加しているため、今後は各々が、活動を通じて、充実感・達成感を感じられるよう、更に運営を工夫していく必要がある。
		④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(a+y+b+z)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	66.0% D (a24.6%+b41.4%)<62.6%>【66.9%】 1年 60.1% D (a21.6%+b38.5%)<59.8%> 2年 65.2% D (a20.9%+b44.3%)<61.2%> 3年 73.3% C (a31.8%+b41.5%)<67.1%>	積極的に地域の行事に参加している委員会・部もある一方、全体的に、校内の委員会活動はあまり活発ではないのが現状である。生徒も教員も、学業や部活動等で時間を捻出することが難しい状況にはあるが、委員会活動の意義を理解してもらうよう努めていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	生徒に様々な経験をしてもらうために、野々市市との地域連携は更に深めていってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	野々市市を中心とした地域連携は、今後も積極的に進めていく。				

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
5	① 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	生徒課 各学年	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた(aよく+bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	82.4% A (a33.6%+b48.8%)<84.7%>【85.0%】 1年 78.8% B (a26.4%+b52.4%)<83.3%> 2年 81.9% A (a35.2%+b46.7%)<84.7%> 3年 86.8% A (a39.5%+b47.3%)<86.2%>	生徒は自分から進んで挨拶をしていると答えているが、教員や保護者からは同じように感じていない意見もある。最近では声を出して挨拶する機会が減ってきているので、教員側からも積極的に生徒へ挨拶するよう努めていきたい。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	制服を意識的に正しく整えている(aよく+bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	97.7% A (a64.9%+b32.8%)<98.0%>【96.8%】 1年 97.4% A (a70.7%+b26.7%)<98.6%> 2年 97.5% A (a61.3%+b36.2%)<97.9%> 3年 98.1% A (a62.8%+b35.3%)<97.3%>	生徒はしっかりと着用できていると感じているようだが、制服の着こなしについては様々な意見があり、最近ほどの学校も着こなしを多様化させている。今後も教員間で共通理解をもって指導できるよう努めていきたい。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく+bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	97.4% B (a74.3%+b23.1%)<94.6%>【93.1%】 1年 97.1% B (a73.7%+b23.8%)<93.9%> 2年 97.2% B (a74.9%+b22.3%)<96.2%> 3年 98.1% A (a74.8%+b23.3%)<93.5%>	自転車事故報告数は13件から9件と減少したにもかかわらず、一般の方からの注意の電話を受けている。11月には道路交通法の改正もあったので、今後、自分だけでなく他者の命を守るためにも交通ルールの遵守について継続して指導していきたい。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことへの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく+bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	60.1% B (a24.0%+b36.1%)<60.4%>【56.7%】 1年 57.9% C (a20.9%+b37.0%)<59.1%> 2年 55.4% C (a21.3%+b34.1%)<58.5%> 3年 67.4% B (a30.2%+b37.2%)<64.0%>	今年度も清掃を中心に多くの部がボランティア活動を実施した。ただ、1・2年生の間はまだボランティアへの意識が低いので、今後、この部活動単位での活動をきっかけとして身近な地域だけでなく、広く社会貢献への意識が育成されるよう続けていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	93.6% A (a55.1%+b38.5%)<92.0%>【89.7%】 1年 93.8% A (a62.3%+b31.5%)<93.1%> 2年 93.7% B (a49.1%+b44.6%)<91.2%> 3年 93.4% A (a54.3%+b39.1%)<91.6%>	例年になく高い結果である。ホームや部活動が居場所として充実している生徒が多いと考えられる。各学年は引き続き学校生活の充実をはかっていく。相談室はC・Dの生徒に目を向けていく必要がある。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	88.7% C (a34.0%+b54.7%)<96.3%>【92.5%】 いじめ関係 88.7% C (a49.1%+b39.6%) 人間関係 88.7% C (a34.0%+b54.7%)	いじめ、人間関係ともによくないと感じている教員が増えている。いじめの対応については学年・生徒課・相談室の連携の基本を見直す必要がある。人間関係の変化の察知は教員側に余裕と心構えが必要になる。新年度に向けて研修のあり方や啓発チラシなどを考えていきたい。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	93.9% A (a49.6%+b44.3%)<93.3%>【92.8%】 1年 90.8%A (a47.6%+b43.2%)<91.0%>【93.7%】 2年 95.8%A (a50.2%+b45.6%)<94.9%>【93.1%】 3年 95.0%A (a51.2%+b43.8%)<93.9%>【91.6%】	今年度から清掃方法を全員一斉清掃から当番制に変更した。1年では、昨年より、a+bで3%近く下がっており、当番制に変更した影響であると思われる。一方、2・3年では、当番制になり清掃機会が減ったことにかえって責任感が強まったのか、前年度より約3%も高まり95%を超える結果となった。学年が上がるにつれて真面目に取り組む意識が高まっており、愛校心に繋がることを期待したい。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や一斉読書による読書指導によって読書に親しむ習慣をつけるとともに、探究活動等でも図書室を利用できるようにする。	図書室	生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	1.82冊 D (1月17日時点) <0.6冊> 【2.06冊】	毎月100冊を越える貸出はあり、月ごとでは昨年を上回り、平均冊数は昨を下回るが徐々に増えてはいる。総体・総文時の全体貸出数の少なさが、平均貸出数の現時点での減少になっているようだ。図書室利用の対策としては、これまで同様の広報活動に加え、今後は学習センター、情報センターとしての役割も充実できるようにし、読書の貸出だけでなく、総合的探究のための調査や学習での利用も念頭に資料を整え、生徒の要望に応えたい。
学校関係者評価委員会の評価		・若者の発達に関するトラブルが頻発している。いじめ問題も含め、対応を考えてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・いじめについては、アンケートの回数を増やし、教師間の情報共有を密にし、できる限り対応している。 ・能登の被災状況を調査したり、登山を経験したり、様々な活動を提供することで生徒の心の成長を促したい。			